福井県職員デジタル人材育成方針について

1 方針策定の目的

本県では、令和３年３月にDX推進の方針として「福井県DX推進プログラム」を策定しており、これまでにも職員の意識改革や体制構築等を実施してきた。

今後、DXの取組をさらに全庁的に拡大させるため、DXの主体となる職員の育成についての方針を策定し、体系的に取り組んでいく。

福井県DX推進プログラム

目指すビジョン　福井県の将来を持続可能なものとするため、即効性が高い手段であるDXを早期に活用

行　動　規　範　みずから変える（全庁を挙げて、DXありきで政策立案や業務の遂行・改善に取り組む）

現状

・１２６所属６６９業務で、ローコードツール等を活用した業務改善（システム内製化）が進行

・庁内DXコミュニティに１,５００名超の職員が参加し、職員同士の情報共有が拡大　　等

全庁的な取り組みへ拡大

『福井県職員デジタル人材育成方針』（R5.2.1策定）

目的：DXの主体となる「デジタル人材」の育成を体系的に推進

内容：求める人材像やスキル等を設定し、その習得に向けた育成プログラムや進捗評価体制を整理

＜整理を図る観点＞

①求める人材像、②スキルマップ、③育成プログラム、④評価体制

2 DX推進人材の定義

本方針では、DXを推進するために必要な役割（要件・スキル等）を職員の役職ごとに４区分で整理します。

役割区分	役職	必要な要件	スキルマップ
推進マネジメント層： **各所属のDX推進の責任者（意思決定権者）として、デジタル技術等を活用した事業推進の監理、DX推進目標の策定、体制構築および人材の適切な配置育成を行う。**	**管理職** ・課長級 ・参事級 等	・戦略 ・組織運営	i　リーダーシップ ii　人材育成 iii　組織文化の変革 iv　インシデント管理
プロジェクトリーダー層： **デジタル技術等を活用した牽引役として事業推進を行う。**	**主任以上** ・総括補佐級 ・課長補佐級	・プロジェクト運営 ・専門スキル	i　プロジェクトマネジメント ii　DX実践知識 （UI/UXデザイン、データ分析、クラウド、IoT、AI、ネットワーク、内製化、デジタルマーケティング等） iii　DX推進ノウハウ
DXリーダー： **各所属のＤＸ推進目標遂行に向けた支援を行う（そのための高度な知識・技術習得、伴走・実践を含む）。**	**一般職員** ・主査級 ・一般職員 等	・リテラシー ・知識	i　DX基礎知識 （デジタル技術、データ利活用、デザイン思考） ii　業務改善 iii　システム開発・運営 （アジャイル開発・IT調達等） iv　EBPM
一般職員： **必要となるマインド、知識・リテラシーをもって、実務への参画・遂行を行う。**		・マインド ・デジタル体験	i　DX推進マインド ii　実務活用例 iii　情報セキュリティ・コンプライアンス iv　ハンズオン型実践

3 育成プログラム

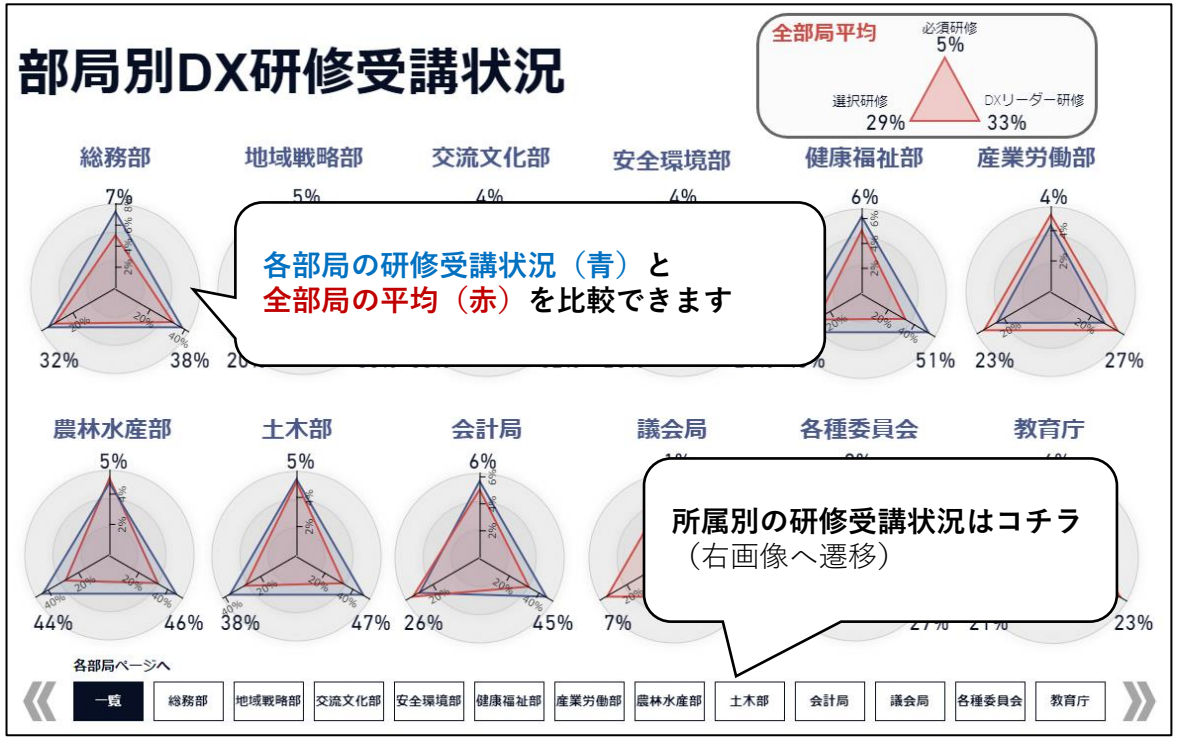
役割区分ごとに求められるスキル等の習得のために、階層別職員研修やDX課研修の中に必須研修および選択研修を用意。体系的に職員研修を実施します。（Ｒ５年度より実施・別途通知）

役割区分	必修研修			選択研修	
	研修名			研修名	
推進マネジメント層 （管理職）	**トップ マネジメント**	DX推進研修		プロジェクトリーダー層以下の 選択研修において未受講のもの	
		人と組織の改革			
		インシデント管理			
プロジェクトリーダー層 （主任以上）	**課長補佐 マネジメント スキル養成**	DX推進研修		**DX 推進課**	DX時代のITシステム調達法
		ICT改革			データサイエンス「超」活用セミナー
					デジタルマーケティング
DXリーダー	**リーダースキル 養成 採用５年目 採用３年目 新採用**	DX推進研修		**能力開発 （自治研）**	地方自治体におけるAI・IoTの基礎研修
		情報セキュリティ（新採用）			
		DXゲートウェイ研修			
一般職員	**DX 推進課**	**DXリーダー は必須**	デジタル技術	**DX 推進課**	デジタル技術
			データ活用		データ活用
			デザイン思考		デザイン思考
			業務改革		業務改革
			ICT改革		ICT改革
					情報セキュリティ
					ビッグデータセミナー
					戦略的なアンケート調査の実施
					デザイン思考ワークショップ
					デジタルを活用した業務改革
					DX時代のITシステム調達法
					EBPM等ワークショップ
					ハンズオン研修（kintone、電子申請等）

4 評価体制

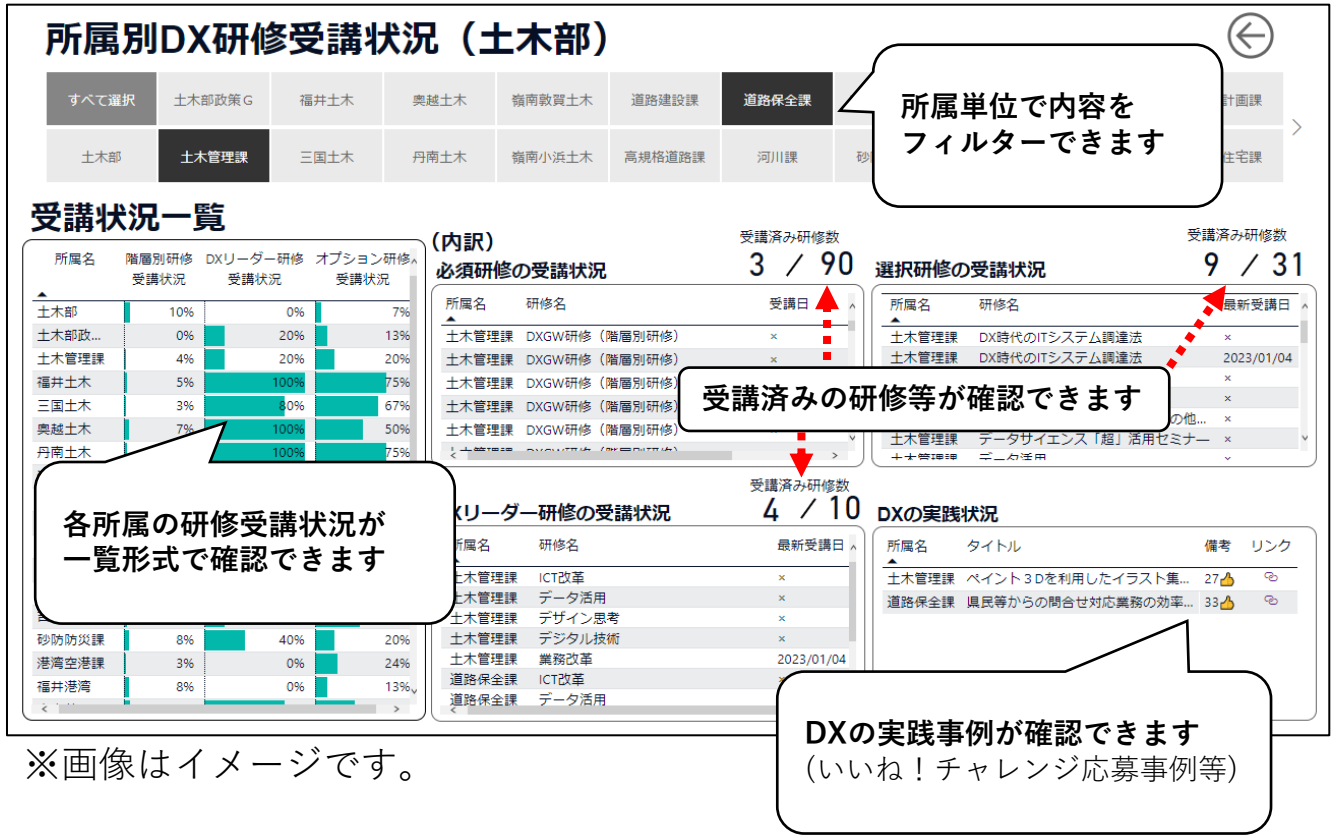
部局別・所属別の研修受講状況は、ダッシュボード化し、イントラネット「DX推進のひろば」で公開します。

①部局単位で可視化



※画像はイメージです。

②所属単位での可視化



※画像はイメージです。